

技術情報

注目される飼料イネ—— 「たちあやか」=中生版「たちすずか」の栄養価

県立総合技術研究所畜産技術センター 河野 幸雄 氏

先月号では、「たちすずか」より出穂時期が早い姉妹品種「たちあやか」の栽培上のメリットについて紹介しました。今月号では引き続き「たちあやか」の栄養価について解説します。

【成分組成】

本誌の昨年12月号で、「たちすずか」は、茎葉部に糖やデンプンを多く含むため、穂重割合が著しく小さくても、ホールクroppサイレーズ(WCS)の成分組成は普通品種と変わらないことや、この特徴が極短穂という特異な形態によりもたらされるものであることを紹介しました。

今回紹介する「たちあやか」も「たちすずか」と同様に極短穂型品種ですから、成分組成の特徴は「たちすずか」と類似していることが予想されます。そこで、両品種を、同一圃場で施肥量や植栽密度などの条件を同じにして栽培し、出穂後30日目に収穫調製したWCSの成分組成を比較しました。その結果、表1に示したように、両品種の成分組成はほぼ同様の値であることがわかります。やはり「たちあやか」も極短穂型品種としての特徴を備えていました。

表1 ホールクroppサイレーズの成分組成

品種	乾物率 %	乾物中濃度 %						
		粗蛋白	粗脂肪	可溶無窒素物	粗繊維	粗灰分	NFC	NDF
たちあやか	34.0	4.9	1.8	56.6	25.6	11.0	36.8	45.4
たちすずか	35.3	5.2	1.8	54.5	27.2	11.2	33.5	48.2

※収穫日は出穂後30日目

NFC:非繊維性炭水化物 NDF:中性デタージェント繊維

【消化率と可消化養分総量】

次に、ヤギを使って両品種のWCSの消化試験を行い、各成分の消化率を比較しました(図1)。「たちすずか」の消化率は、従来品種と比べて粗繊維や中性デタージェント繊維(NDF)の消化率が高く、その結果、可消化養分総量(TDN)も従来品種より高いことが特徴でした。図1に示したように、「たちあやか」の粗繊維とNDFの消化率は「たちすずか」と同等で、「たちあやか」も繊維の消化が良い品種であることがわかりました。また、「たちあやか」のTDNも「たちすずか」とほぼ同等で、栄養価が高い品種であることがわかりました。

以上のように、「たちあやか」は成分組成、消化性ともに「たちすずか」と同様の優れた特性を持っています。

図1 各成分の消化率と可消化養分総量

